

# 波紋



# Ripple

創刊  
1985年(昭和60年)7月  
No. 341号

## 森松展実行委員長を終えて

10月3日(木)〜10月4日(金)の2日間、「第21回元氣が出る森松展」を開催しました。出展企業数39社様のご協力により、多数の新商品・材料などを出展・発信することが出来ました。2日間で338名の方々にご来場いただき、盛況のうちに無事終了することが出来ました。これも出展企業様・ご来場者様のご協力いただいた方々・森松マンのおかげだと思っております。心より、御礼申し上げます。

「初」の試みとしては、

①丸山特許事務所 丸山明夫氏・日本バイオプラスチック協会 猪股勲氏の今までは一味変わった業種の講師を招き、講演会を開催させていただきました。

②弊社森松会長が、語学留学のため不在のまま開催しました。

③各ブースに1つ以上「新商品・目玉商品」のPOPを付けました。

④営業マン全員が、各ブースの「新商品・目玉商品」のリスト・画像・特徴などが入った「タブレット」を持参し、来場者様から質問を受けた際には、説明できる体制を取った。お陰様で、例年に比べ来場者様の来場時間・1ブース当たりの滞在時間が長かった様に感じました。森松マンは「新情報」を発信し続けますので、今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。なお展示場は常設となっておりますので、いつでもお気軽にお立ち寄りください。

「元氣が出る森松展」実行委員長 伊東郁一



## 「第21回元氣が出る森松展を終えて」

社長 森 直樹



去る10月3、4日と開催致しました「第21回元氣の出る森松展」は、338名の来場者を迎えたい。閉会は大変感謝申し上げます。ご来場いただいた皆様には反省点を改善し、より多くの皆様へ進化させることが出来たと思っております。進化した21年という積み重ねの中で、回を追うごとに十分の運営体制から現場での対応まで、個々の経験がいくごと、展示会実行委員の経験と知恵が継承されていくことが、また展示会当日の現場に於いては、対々が出来るという「元氣」を出すこと。また次回も最新情報を掲載したい。所存です。改めてこの森松展を続ける場が、特別な案件が発生しない限り打ち合わせをする機会があります。そう、いった中で森松展という「場」が有ること。遠い方も近い方も一同に集まり、アイデアが生まれ、そこから更に別の意見も加わり、面「する」ということはメールや電話で伝えられない。その詳細な情報をやりとりできるチャンネルが、対面での話をするというコミュニケーションを取りたいものです。今後ともよろしくお申し込みを、常

# リベンジ

安井 浩二（企画営業部）



今年もPVC Design Award 2013（塩ビものづくりコンテスト）が行われました。森会長のはからいにより、昨年同様、入賞金額と同額の報奨金が会社より支払われることになりました。コンテストの大賞金額は100万円！獲得すれば200万円がゲットできるチャンスです。その権利を公平に獲得できるように従業員全員参加にて一人最低、一点以上の作品提出を条件に13チームに分け挑みました。5ヶ月間の苦勞の末、38名、41点の作品を応募しました。誰が入賞するのだろうかと予測しながら、第一次審査結果を楽しみに待つておりましたが・・・なんと残酷な結果！1点も通過しませんでした。全応募作品107点のうち約4割が森松の作品。誰かが入選するだろうと思っておりました。本来ならば、「〇〇さん入選おめでとうございます。」というイメーヅで波紋を書くつもりでした。常勝チームがまさかの予選大敗。という感じです。この時点では、どんな作品が入賞したかわかりませんが、3回目のコンテストです。審査基準、他社の応募作品もレベルアップされたと思います。しかし、今回のコンテストを通じて仕事の手順、生産工程、材料の知識、指導方法、部内でのコミュニケーションを図るなど・・・プロセスを学ぶことも目的としました。初参加の方々も、ものづくり（製品）の難しさを知ったと思われます。私自身も特に女性の皆さんからは、作品に対し、アイデア、ネーミング、主婦的な発想などを、たくさん学ばせてもらいました。残念な結果でしたが、「大変だったけど楽しかった」「自分の思いが作品になった」などの声を聞くこともでき、嬉しかったです。また、作品づくりに資材提供して頂いたメーカー様や忙しい中、試作して頂いた加工業の皆さん、ご協力いただきました。ありがとうございます。あらためてお礼を申し上げます。さて、この「悔しさ」は次回にぶつけます。先日も各チームで反省会を行い、大半の意見は一人一点以上から、チームで一点。「一点集中」で絞る意見が多数でした。よって、次回は各々の得意分野を生かした作品づくりで挑みます。皆様、ご協力をお願いします。そして「入賞」を目標にリベンジを果たしましょう。

# イプシロンロケット

吉岡 孝記（営業部）



先月9月14日に内之浦宇宙空間観測所からイプシロンロケットが打ち上げられました。テレビで打ち上げの映像を見て凄いなと感じました。イプシロンロケットは、2006年度に廃止されたM-Vロケットの後継機として2010年から本格的に開発が始まり、2013年に試験1号機が打ち上げられた固形ロケットだそうで、打ち上げ費用は38億円と旧型機の半分程度と安く今後は30億円以下を目標としているそうです。また、今回の新しいシステムとしてロケットとの知能化でイプシロンでは搭載機器の点検をロケット自身が自立的に行うそうでこれにより、世界中どこにいても、ネットワークに接続するだけでロケットの管制が可能となるそうで、モバイル管制と呼ばれ、世界でも最もコンパクトで究極の管制システムと言っても過言ではありません。昔は管制室に100人ぐらいいた記憶がありますが、このシステムだと数人で管理できるようになります。世界に誇れるメイドインジャパンの技術の凄さがよく分かります。私が小さい頃、なりたい職業はと聞かれた時男の子は、ほとんど野球選手かパイロットと答えた記憶があります。今はサッカー選手でしょうか。この頃は宇宙旅行なんて考えもしなかったですが近い将来そういう時代が来ると確信しました。しかし私が生きていく間には無理でしょうね・・・。

<http://www.jaxa.jp/projects/rockets/epsilon/>

全長 : 24m  
質量 : 91 t





